

◎研究主題◎

これからの社会を生き抜く五小バランス

～総合的な学習の時間・生活科、道徳、体育を中心とした、

社会を生き抜く力を育てるための指導法の工夫～

総合

総合的な学習の時間



生活

道徳



体育



武蔵野市立第五小学校

平成30年1月19日(金)

今日、グローバル化の進展や技術革新の急激な進展等により、社会構造は急速に変化しており、予測困難な時代を迎えています。このような時代に対応できるよう、児童・生徒自らに未来や人生をどのようによりよくしていくのかということを考えさせ、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせることが求められています。

平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領の中でも、知・徳・体の面から生きる力を児童・生徒に育むために、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つに整理し、これらの資質・能力等をバランスよく育成していくことが示されています。

武蔵野市教育委員会では、平成 29 年度の基本方針の中で、「確かな学力の向上と個性の伸長」を掲げ、子どもたち一人一人への理解を深め、取組状況等を認め励ますことにより、児童・生徒の学習意欲を向上させ、主体的な学習に取り組む態度を育むことを目指しています。具体的な取組として、「学力及び体力向上に向けた取組」、「道徳教育の充実に向けた取組」を主要事業の中に位置付けて推進しております。

こうした中、本校では、平成 28・29 年度武蔵野市教育研究奨励校として、「総合的な学習の時間」・「生活科」、「道徳」、「体育」の教科・領域を中心に「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育成することのできる指導法の工夫に努めていただきました。児童が自分の考えを言語化し、各教科の特質に応じた見方・考え方を身に付け、これらを活用して学習することで、これからの変化の多い社会を生き抜く力の育成にせまることができたと伺っております。本研究の成果が、広く市内外の教育実践に寄与することを心より願っております。

結びに、本研究の推進に御尽力いただきました第五小学校 嶋田晶子校長先生をはじめ、教職員の皆様に感謝を申し上げますとともに、本研究のために、御指導・御助言を賜りました東京聖栄大学教授 有村久春先生をはじめ、関係諸先生方に厚く御礼を申し上げます。

あいさつ 武蔵野市立第五小学校 校長 嶋田 晶子

予測困難なこれからの社会で生きていく子どもたちには、変化に対し、受け身ではなく主体的に向き合いかわり合う力、他者と協働し、課題を解決する力などが求められています。

本校では、このようなこれからの社会を生きる力、生き抜いていく力を児童に育てていくために、「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」を育むという視点から研究をスタートしました。本研究の始まりは 3 年前でした。その間、新学習指導要領の告示があり、資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的な学び」の姿、「深い学び」の姿に迫るためには具体的にどのような指導の工夫をすればいいのか、目指す児童の姿はどのような姿なのかを考え、研究授業を中心として研究を進めて参りました。しかし、3 つの教科・領域には、目標や内容、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」があります。特に、3 つの教科・領域を貫く研究の柱をどう考えていくのが本研究のポイントとなりました。そして、研究を進めていく中で、「対話的な学びにするための取組」と「深い学びにするための言語活動」を指導法の工夫の 2 本の柱とし、各授業において実践を重ねてきました。

しかしながら、本研究はスタート地点についたばかりです。取り組んできた 3 つの教科・領域から他の教科・領域における指導の工夫や改善は、どのようにしていけばよいのか、来年度へ向け、研鑽を積んで参りたいと思います。

最後になりましたが、年間を通して御指導いただいた東京聖栄大学教授 有村久春先生、体育の授業に御指導いただいた元東京都小学校体育研究会会長 杉並区立桃井第三小学校長 末永弘先生、昨年度御指導いただいた白百合女子大学講師 宮島盛隆先生に厚く御礼申し上げます。

また、武蔵野市教育研究奨励校として、貴重な機会を与えていただき、年間を通して御指導・御助言いただきました武蔵野市教育委員会の皆様に心より感謝、御礼申し上げます。

研究の内容

【社会的な背景】

- 個人主義の風潮、物質的な充足の偏重、自然体験の不足
→規範意識・社会性・体力の低下等の課題
- 技術革新などの多様な変化が予想される社会

【武蔵野市教育委員会の教育目標】

- ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- ・自ら学び考え行動する、個性と創造性豊かな人間

【本校の教育目標】

人間尊重の精神を基調とし、生涯学習の視点に立って、知性と感性に富み、たくましく生きる人間性豊かな児童の育成を目指す
元気 本気 根気
「気」のあふれる学校を目指す

【武蔵野市立第五小学校の児童の実態】

- ・与えられた課題に対して意欲的に取り組む。
- ・自らの課題設定やその課題を解決しようとする進んで探究する場面で、主体性に欠けるところがある。
- ・自分の考えを伝えることに苦手意識がある。
- ・他者とのかかわりが希薄になってきている。
- ・運動する児童としない児童の二極化傾向がある。
- ・運動を楽しんで行う児童が多いが、休み時間や日常生活で運動に親しむ児童が少ない。
- ・走力・跳力は全国平均より高い数値を示すが、持久力と投力に課題がある。
- ・保健の知識はあるが実生活との結び付きが十分でない。

研究主題

これからの社会を生き抜く五小バランス ～総合的な学習の時間・生活科、道徳、体育を中心とした、 社会を生き抜く力を育てるための指導法の工夫～

「これからの社会」とは、

- 生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境が変化し予測が困難な時代となる社会。
- 急激な少子高齢化が進む中で、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことが求められる社会。

「生き抜く力」とは、

- 変化に受け身ではなく主体的に向き合い、関わり合う力
- 自らの可能性を発揮できる力
- 様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断できる力
- 他者と一緒に考え、課題を解決できる力

「五小バランス」とは、

「知」「徳」「体」の調和のとれた教育活動。これを通して、児童がこれからの社会を生き抜く力を身に付け、成長することを目指す。

めざす児童像

対話的な学びを通して、主体的に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付ける児童

知

徳

体

自分の考えを発信する児童

低学年
課題に対する自分の気付きや発見を言葉で伝えることができる。

中学年
課題に対する自分の考えをもち、学んだことをいろいろな表現方法で伝えることができる。

高学年
課題に対する自分の考えをもち、相手や目的に応じたより効果的な伝え方を選び、根拠に基づいて考えを説明することができる。

他者とよりよい関係を築く児童

低学年
身近にいる人に温かい心で接し、親切にできる。

中学年
友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができる。

高学年
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重できる。

自身の健康について関心をもつとともに意欲的に運動に取り組む児童

【運動領域】
低学年
決まりを守り、誰とでも仲良く運動することができる。

中学年
最後まで努力して、運動することができる。

高学年
自己の最善を尽くして、運動することができる。

【保健領域】
自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとすることができる。

研究内容

各教科・領域のねらいにせまる対話的な学びを実現するための取組

対象との対話

課題把握、学習対象の理解、教材との出会い、教科の見方・考え方を働かせる

他者との対話

自分の考えと他者の考えの比較、統合、根拠を明確にした話し合い

自己との対話

学習内容と自己の経験や社会背景などとの関連付け、自分の考えの整理

深い学びを実現するための言語活動の充実

自分の考えの言語化

課題をよりよく解決するための言語活動

振り返りの言語活動

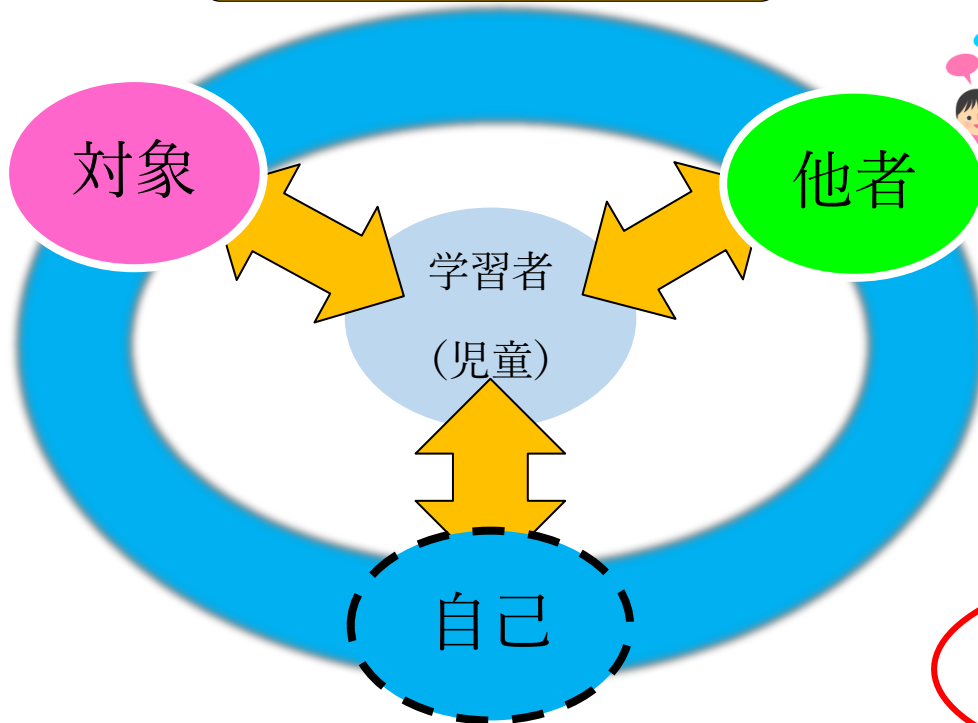
本時の学びを整理し、次時への意欲をもつ態度を育てるための言語活動

第五小学校の教育活動

研究仮説

各教科・領域のねらいにせまる
対話的な学びを実現するための取組

深い学びを実現するための
言語活動の充実



振り返りの言語活動

深い学び

自分の考えの言語化

自分の考えを言語化することで
学習者と対話の相手をつなぎ、
内容の理解がより深まる。

指導法の工夫

各教科・領域のねらいにせまる
対話的な学びを実現するための取組

総合・生活分科会

道徳分科会

体育分科会

対象

・最終的なゴールの明確化

・教材選択
・教材提示の工夫

・ICT機器及び資料の活用

他者

・視点を明確にした話し合い活動の工夫

・多面的・多角的な考えが出る話し合いの設定

・学習課題提示やグループ編成の工夫

自己

・自分の考えの変化や深まりに気付くためのワークシートの工夫

・道徳的価値に照らし合わせた振り返りをする道徳ノートやワークシートの工夫

・スモールステップ(技能の系統や発達段階を意識した指導)
・実践力を高めるための活動の工夫

深い学びとは、
なぜできた（分かった）か
理由を明らかにし、次への
学習意欲を高める学習。

対話的な学びを通して、主体的に
「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
を身に付ける児童の育成



の 実 現 へ



確かな学力「知」

資質・能力の育成

豊かな心「徳」

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

健やかな体「体」

学びに向かう力・人間性

深い学びを実現するための
言語活動の充実

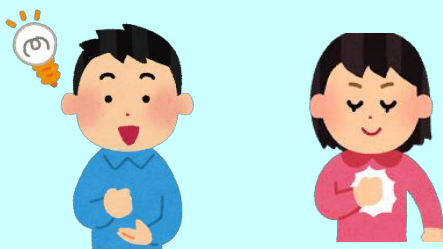
自分の考えの言語化

- ・自分の考えを記述する。
- ・言葉で意思表示をする。



振り返りの言語活動

- ・毎時間、振り返りをする。
- ・単元末に振り返りをする。



総合的な学習の時間・生活科 分科会

総合的な学習の時間・生活科分科会が捉える「確かな学力」

新学習指導要領において総合的な学習の時間は、「変化の激しい社会に対応できるように、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」がねらいとされており、その役割は、ますます重要なものとされている。このことは、体験的な活動を通して気付いたことを基に、一人一人がよく考え、他者と交流する中で気付きの質を高めていくことを重視している生活科の学習にも通じるものであり、その素地を養えるものといえる。自ら課題を見付け、課題の解決に向け、他者と協力しながら主体的に取り組む児童の育成が、一層求められている。

しかし、五小の実態は、与えられた課題に対しては一生懸命に取り組む児童が多いが、自ら課題を解決しようと進んで探究したり、新たな課題を見付けたりする場面では、主体性に欠ける様子が見られる。また、自分の考えや調べてきた成果を伝え合う場面では、明確に伝えられない様子もある。

そこで、自分自身の疑問や興味関心を深めたり、獲得した知識を友達と伝え合ったりすることで、学習を深めることや、探究的な学習を通して学ぶ楽しさを児童一人一人が感じられるようにしていくことが必要だと考えた。このように、課題設定において自分自身の疑問や興味関心を言語化したり、調べた成果を友達に伝える際に、分かりやすくまとめたりするために必要な力を本分科会では「発信する力」と定義することとした。この「発信する力」を段階的に育むことで、「確かな学力」を一人一人の児童に付けていきたい。

めざす児童像 自分の考えを発信する児童

- 低学年 課題に対する自分の気付きや発見を、言葉で伝えることができる。
- 中学年 課題に対する自分の考えをもち、学んだことをいろいろな表現方法で伝えることができる。
- 高学年 課題に対する自分の考えをもち、相手や目的に応じたより効果的な伝え方を選び、根拠に基づいて考えを説明することができる。

対話的な学びを実現するために

①学習者と対象をつなぐ

既習事項をもとに児童の興味関心を生かし課題設定をする。最終的なゴールを明確にし、児童と共有することで、よりよいものを創る意欲につなげ、主体的に活動できるようにする。

②学習者と他者をつなぐ

話合いの際の視点を明確にして、友達と自分の考えを分かりやすく伝え合うことで、新しい知識や価値観と出会い、次に調べたい疑問へと学びを広げられるようにする。

③自己との対話

・自分の考えの変化や深まりに気付く

振り返りの時間を設け、一時間の自分の考えを振り返ることができるワークシートを見ながら、本時で分かったことやもっと知りたいことを言語化することで、自分の考えの変化や深まりに気付く。

深い学びを実現するために

①自分の考えの言語化

～課題をよりよく解決するための言語活動～

・生活科

課題に対して、自分の生活と関連付けながら、自分にできることを考え、ワークシートを活用して友達に伝えられるようにする。

・総合的な学習の時間


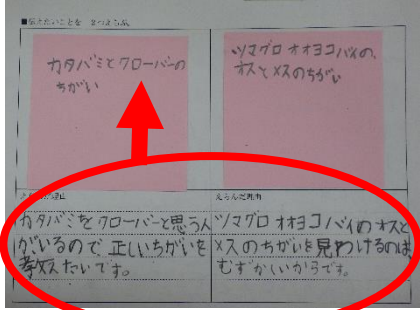
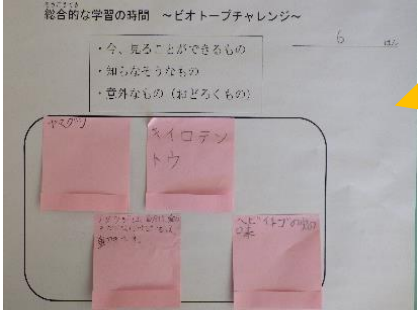

思考ツールを使った話合い活動を行い学習を進めることで、異なる意見や考えに触れ、多面的・多角的に思考を深められるようにする。

②振り返りの言語活動～本時の学びを整理し、次時への意欲をもつ態度を育てるための言語活動～

本時で分かったことやできるようになったことを振り返り、達成感を味わえるようにする。また、次時へ向けてもっとやりたいことを考えることで、児童自らが学習をつくっていく経験を積むことができるようにする。これらの活動が、学習内容への思い入れをもつことへつなげる。

単元の目標

- 生物と触れ合い、観察し調べていく活動を通して、自ら課題を見付け、調べ、解決する学習方法を身に付ける。
- 調べたことについて目的をもってまとめ、他者に伝える方法を身に付ける。
- 生物と触れ合う活動を通して、生物について知り、身近な生物や自然を大切にしようとする気持ちをもつ。

対話的な学び	学習活動	深い学びにするための言語活動 (実際の児童の反応)
<p>対象との対話</p> <p>①最終的なゴールの明確化 本校のビオトープで、ゲストティーチャー（武蔵野自然塾）と行った生物クイズをきっかけに、「ビオトープに生息する生物の不思議を低学年に伝える」という単元のゴールを児童と確認し、学習をすすめた。</p>	<p>①これまでの学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> 	<p>①自分の考えを言語化するためのワークシートの活用</p> <p>【個人のワークシート】①</p>  <p>根拠をもたせながら、自分の考えを付箋にまとめる。</p>
<p>他者との対話</p> <p>②視点を明確にした話し合い活動</p> <p>◎伝えることを選ぶときの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、見ることができるもの ・低学年が知らなそうなこと ・意外なもの（驚くもの） 	<p>②決める視点を提示。</p> <p>③前時までの調べたことの中から伝えたいことを2つ選ぶ。</p>	<p>わたしは、〇〇のことをクイズにします。 (理由) 〇〇は、みんな知らないと思うので、クイズで知ったとき、驚くと思ったからです。</p>
<p>自己との対話</p> <p>③自分の考えの変化や深まりに気付く</p> <p>【話し合い用ワークシート】②</p>  <p>ワークシート①②を比較しながら、振り返りを行う。</p>	<p>④グループで話し合い、伝えたいことを決める。</p>  <p>⑤全体で交流する。</p> <p>⑥振り返りをする。</p>	<p>②振り返りの言語活動 本時の学習活動を通して自分の考えの変化とその理由を記述する。</p> <p>わたしは、ソメイヨシノにするかヒメジョオンにするか迷っていたけど、友達の見意見を聞いて、1年生と2年生に何の花のクイズを出すか決めることができました。</p>

本単元における成果と課題

- 自然塾の体験をきっかけに学習のゴールを児童と話し合っ決めて決めたことで、主体的に課題を設定し、自ら課題解決に向かう児童が多くみられた。
- 他者との対話の中で調べてきた成果を友達に認められたことで、発表に向けて自信につながった。
- 調べたことを様々な方法で伝える経験がまだ乏しく、発信の仕方が偏ってしまった。「発信する力」の育成のために、発表する機会を増やすことや他教科と関連付けて単元を構成することが必要である。

道徳 分科会

道徳分科会が捉える「豊かな心」

現代は、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが、強く求められる時代である。そのためには、一人一人が、道徳的価値の自覚のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である。このような資質・能力の育成に道徳教育は大きな役割を果たす。教育活動における道徳教育の要としての道徳の授業の中で、児童が道徳的価値を自分自身との関わりでとらえ、自己の生き方について考えること、様々な価値観に触れて物事を多面的・多角的に考えることを通して、この資質能力が育っていくと考える。

学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための基盤を養うことを目標とする教育活動であることが、新学習指導要領に明記されている。近年、少子化や都市化の影響から、家庭や地域における結び付きが希薄化し、児童が他者と上手に関わることが年々課題となってきた実態がある。本校でも、他者との関わりがうまくもてず、気持ちがすれちがってしまう場面が見受けられる。そこで、道徳分科会ではこれからの社会を生き抜くために、様々な道徳的な資質・能力の中でも特に「他者とよりよい関係を築く力」に重点を置き、「豊かな心」を一人一人の児童に育てていきたい。

めざす児童像 他者とよりよい関係を築く児童

低学年 身近にいる人に温かい心で接し、親切にできる。

中学年 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができる。

高学年 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重できる。

対話的な学びを実現するために

①学習者と対象をつなぐ

児童が興味・関心をもてるような題材を扱った教材を選択する。ICT機器を用いたり、紙芝居で提示したり、児童と教材の出合わせ方を工夫する。

②学習者と他者をつなぐ

教材や体験などから考えたこと、感じたことを発表し合ったり、葛藤や衝突が生じる場面について立場を明確にして話し合ったり議論したりすることで、異なる考えに接し、多面的・多角的に物事を捉えられるようにする。

③自己との対話

道徳的価値に照らし合わせて自己のこれまでの生活を振り返り、自己の道徳的価値を深める。

特に低学年では、生活の中の行為と、道徳的価値を結び付けられるような工夫をする。

高学年では、最後に本時の道徳的価値についての自分の考えをまとめる工夫をする。

深い学びを実現するために




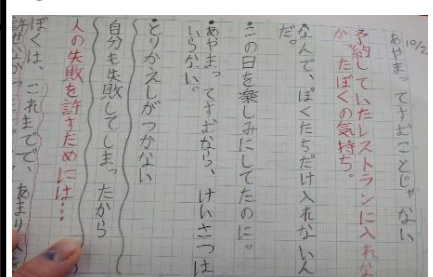
①自分の考えの言語化

～課題をよりよく解決するための言語活動～

- ・言葉の言い換えや切り返しの発問により、豊かに表現できるようにする。
- ・話合いや議論の中で、多面的・多角的な考えに触れ、自らの考えを深められるようにする。
- ・ワークシートや道徳ノートに考えを蓄積することで、既習事項と照らし合わせて記述できるようにする。

②振り返りの言語活動～本時の学びを整理し、次時への意欲をもつ態度を育てるための言語活動～

- ・感じたことや考えたことを振り返る時間を設ける。
- ・学習内容を掲示物にまとめ、日頃から意識させることで、道徳的価値につながる実践意欲を高める。

対話的な学び	学習活動	深い学びにするための言語活動 (実際の児童の反応)
<p>対象との対話</p> <p>①教材の選択 自分たちの生活の周りでも実際に起きうる事柄を扱った教材を選択し、題材にあった体験を想起しやすくする。教材を読む前に似た経験を想起させてから読む。</p>	<p>①これまでの生活を振り返り、予約して何かをした経験を思い出してから教材を読む。</p> 	<p>①気持ちをそれぞれの言葉で表現する。 題名にもなっている「あやまってすむことじゃない」を、各自が別の言葉に置き換えてどんな気持ちが表れているのかを表現してみる。</p>
<p>他者との対話</p> <p>②グループでの話し合い 主発問に対して 3～4 人のグループで話し合い、カードに記録した。ICT 機器でカードを提示して意見を交流し合う中で、多面的・多角的な考え方に触れられるようにした。</p>	<p>②予約したレストランに入れなかった僕の気持ちを考える。 ③ぼくが店員さんを許したのはなぜか考える。 ④人を許すために必要なことは何かをグループで話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にすませてほしくない。 ・とりかえしが見つからない。 ・どうにかしてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・広い心 ・相手の気持ちを思いやる ・冷静さ ・自分の失敗を思い出す
<p>自己との対話</p> <p>③自己の振り返り 自分の生活を振り返り、体験やその時の心情を思い出す活動をした後に、本時の道徳的価値に対する自身の考えを道徳ノートに記入した。</p>	<p>⑤ ICT 機器を使い全体で交流する。 ⑥自己を振り返る。</p> 	<p>②振り返りの言語活動</p>  <p>道徳ノートへの振り返りの記述</p>

本単元における成果と課題

- 教材と自分の生活を結び付けて考えることがよくできていた。「人を許すために必要なことは？」という問いに対して、「冷静さ」「広い心」などの多面的・多角的な意見が多く出て、児童の考えが深まっていくのが分かった。
- グループで話し合われたことを自分の生活の中に生かしていこうとする意見が多く見られた。
- ある児童の発表に対し、他の児童の反応（共感、疑問など）を拾い全体に広げていけるとさらに学びが深まった。

体育 分科会

体育分科会が捉える「健やかな体」

体力は、人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくために必要不可欠なものである。また、体力は人間が知性を磨き、知力を働かせて活動していく源であるとともに、生活を営む上での気力の源でもあり、体力・知力・気力が一体となって人間としての活動が行われる。このように、人間のあらゆる活動の源になる体力を、子どもの時期からしっかりと身に付けていくことが重要であるといえる。

新小学校学習指導要領体育編、運動領域においては、「すべての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導の在り方について配慮する。」保健領域においては、「身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。」(小学校学習指導要領 体育編2-(1)-③-ア-(ア)・2-(1)-③-イ)とある。

本校の児童は、運動領域面においては、運動する子とそうでない子の二極化傾向が見られる。また、体育学習は楽しんで行う児童が多いものの、休み時間や普段の生活において、運動に親しむ児童は少ない傾向もある。そのため、体力水準が全国平均と比べて低い項目もある。保健領域面においては、知識を断片的に理解したり、保健に関する用語について理解しているものの、自身の生活や健康と関連付けて、考えたり理解したりすることが十分でない状況である。

これらの実態を踏まえ、体育分科会の目指す児童像として、「自身の健康について関心をもつとともに、意欲的に運動に取り組む児童」と設定した。本分科会では、保健領域において「自身の健康に関心をもつ」の具体的な児童像として、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとすることができる姿とした。

また、運動領域においては、発達段階に応じて「意欲的な態度」を具体的な児童像で設定した。このことにより、各発達段階に応じた目標が明確になり、それらを身に付けさせていくようにすることで、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現していく「健やかな体」をつくる素地を養えると考えられる。

めざす児童像 自身の健康について関心をもつとともに意欲的に運動に取り組む児童

【運動領域】

低学年 決まりを守り、誰とでも仲良く運動することができる。

中学年 最後まで努力して、運動することができる。

高学年 自己の最善を尽くして、運動することができる。

【保健領域】

自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとすることができる。

対話的な学びを実現するために

①学習者と対象をつなぐ

文献や ICT 機器を活用し、資料を精選しながら、学習に効果的な資料作成を行っていくことで、児童が技能や作戦について、向き合いやすいようにする。

②学習者と他者をつなぐ

明確な学習課題の提示とグループ編成の工夫により、児童が必要感や動きを見合う視点をもって、仲間と協力しながら課題解決的な学習活動が行えるように学習過程や練習の場の工夫を行う。

③自己との対話

【運動領域】

児童が「もう少しでできる！」と思えるように、技能の系統性や発達段階を意識した指導をしたり、児童の発達段階に応じた運動課題を提示したりする。

【保健領域】

自分の生活を振り返りながら、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする力を身に付けていけるような学習活動を取り入れていく。

深い学びを実現するために

①自分の考えの言語化

～課題をよりよく解決するための言語活動～

他者が発言した内容に対して、「同じ考え（共感）」「なるほど（理解）」「わからない」の視点で意思表示することで、運動の感覚やポイントを理解したり、友達の運動を補助したり、自ら運動を楽しんだりできるようにする。（自分の考えの言語化）

②振り返りの言語活動～本時の学びを整理し、次時への意欲をもつ態度を育てるための言語活動～

1 単位授業の最後に、簡単な振り返りを書く活動（低学年は選択方式）と、単元の中盤と終盤に、感想を書く活動を取り入れることで、次時や他の領域への意欲を高めていけるようにする。（振り返りの言語活動）

単元の目標

《技能》

○基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技ができるようにする。

《関心・意欲・態度》

○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

《思考・判断》

○自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫することができるようにする。

対話的な学び	学習活動	深い学びにするための言語活動 (実際の児童の反応)
<p>対象との対話</p> <p>ICT機器及び資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童自身の動きを可視化 技能の系統性を理解しやすくするための資料作成。 <p>【系統性を意識した指導の例】</p> 	<p>①学習内容を確認める。 ②準備運動 ③場の準備をする。 ④「易しい運動」に取り組む。 ⑤「しっかりタイム」に取り組む。</p>  <p>⑥学習の進め方及び見付けたコツの共有を行う。</p> 	<p>①自分の考えの言語化</p> <p>「同じ考え（共感）」「なるほど（理解）」「わからない」の視点で意思表示する。</p>  <p>②振り返りの言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の簡単な振り返り 単元の中盤と最後の感想（200字程度）
<p>自己との対話</p> <p>スモールステップの場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 「易しい運動」に取り組む 系統性を意識した技術指導 	<p>⑦「チャレンジタイム」に取り組む。</p> 	<p>〔児童の感想〕</p> <p>同じ班の人が、「もっと腰を高く上げて。」「逆立ちをするように。」とアドバイスをしてくれて、だんだん大きく回れるようになりました。自分がやったときの映像を見たときは、自分のできていないことを見付けて、うまく回れるようになりました。</p> <p>今度は、自分でコツを見付けて、倒立の技もできるようになりたいと思いました。</p>
<p>他者との対話</p> <p>課題解決的な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 「技」を見合う視点の統一化 練習の場の工夫 <p>【前転の例】</p> 	<p>⑧整理運動 ⑨学習の振り返り ⑩学習のまとめ ⑪用具の片付け</p>	

本単元における成果と課題

- タブレットPCや資料を活用したことで、児童自身が動きを視覚化したり自分の課題を明確にしたりすることができた。
- 技を見る視点を統一化したことで、課題に応じた練習をするときにおいてもその視点を活用し、積極的に教え合えた。
- 児童の技能に適した技を練習する場を設定したが、自分の課題に適した場を選択し、活動できない児童もいた。この課題を受け、今後は場を精選し、児童に分かりやすく示すとともに、じっくり練習する時間を確保する。

成果と課題

成果

- 児童が様々な教科・領域で学んだことを振り返り、言葉で表す力が付いてきた。
- 教師が新学習指導要領の改訂の内容を学び、実践的に学ぶことができた。
- 総合的な学習の時間・生活科、道徳、体育科のそれぞれの教科・領域の指導方法を深めることができた。

課題

- 3つの分科会それぞれに特性の違いがあり、3教科・領域を貫く指導法を明確にすることが難しかった。他の分科会の提案についても理解し、3つの分科会が情報交換を密にして研究を深めていく。
- 教員の指導法の工夫が、児童の学びの深まりに繋がっていたのか、数値的に検討することができなかった。児童の意識調査を計画的に行い、研究の手立ての有効性を見取る。

謝辞

副校長 藤野美由紀

「これからの社会を生き抜く五小バランス」を研究主題として、本校の研究が始まりました。3つの教科領域で取り組み始めましたが、どのような共通点で研究を進めていけばよいのか、暗中模索の時期もありました。講師の先生から御指導をいただき、「対象との対話」「他者との対話」「自己との対話」という3つの共通点で研究を進め、今、2年間の取組をまとめることができました。この2年間、児童の変容はもちろんですが、本校の教員も大きく変容しました。研究推進委員会を中心に、一つの方向性を示すことができたことは、私たち教員の財産となりました。このような研究の機会を与えてくださった、武蔵野市教育委員会、そして御指導くださった諸先生方に心から感謝申し上げます。私たちの研究は、まだ始まったばかりです。今後とも御指導の程、よろしくお願いいたします。

御指導いただいた講師の先生方

東京聖栄大学 教授

元東京都小学校体育研究会会長 杉並区立桃井第三小学校校長

白百合女子大学 講師

有村 久春 先生

末永 弘 先生

宮島 盛隆 先生

研究に携わった教職員

校長	嶋田 晶子		副校長	藤野 美由紀				
総合的な学習の時間 生活科分科会	○渡邊 裕美	1年	道徳分科会	野林 史子	1年	体育分科会	吉野 寿美子	1年
	◎有井 新之助	2年		田中 なお子	2年		○中尾 洋香	4年
	赤松 栄介	3年		駒井 清考	2年		○設楽 和輝	5年
	田中 裕介	4年		村田 紀代美	3年		浅川 泰裕	6年
	吉田 真実	5年		○菊入 幸子	6年		畠中 将行	習熟度
	高下 愛美 富島 佐和子	図工		○小宮 香	音楽		稲村 遼子	養護

◎研究主任 ○研究推進委員 【平成28年度 研究に携わった教職員】内田 久仁重 富田 史子 吉田 美香